ひとりごと

「新しい景色」

この春から、自治体からの派遣で、文部科学省で研修生として過ごしている。新しい環境に身を置く日々は、学ぶことの多い毎日であると同時に、自分自身の視野の狭さや未熟さに気付かされる時間でもある。

立場が変われば、見える景色も変わる。これまでとは異なる角度から教育行政を見つめる中で、改めて感じているのは、目の前の仕事に真摯に向き合う方々の姿である。一つ一つの業務に誠実に取り組むその姿勢に触れるたび、その先には全国の学校現場や教育委員会、そして何より子どもたちの姿があるのだと思わされる。大きな制度や法案も、それ自体が目的なのではなく、一人一人の学びや育ちを支えるためにある。その当たり前のことを、ここでの毎日が改めて教えてくれている。

教育に関わる仕事は、華やかな場面ばかりではない。資料を整え、議論を重ね、細かな確認を積み重ねる地道な営みの連続である。それでも、その積み重ねの先には、子どもたちの日々の学びがある。そう思うと、一つ一つの仕事をおろそかにはできない。

慌ただしい毎日の中でも、家に帰って家族と交わす何気ない会話に、ふっと気持ちが和らぐことがある。外では気を張ることが多い分、何でもない日常のありがたさを、以前より強く感じるようになった。そうした時間に支えられながら、自分もまた、この仕事の一端を担う者として、少しでも役に立てるよう努めたいと思う。

爽やかな五月の空気に触れると、新年度の慌ただしさの中にも、少しだけ気持ちを整える余白が生まれる。新しい環境で戸惑いながらも、一つ一つの経験を自分の糧に変え、これからも謙虚に学び続けていきたい。関わる仕事の重みを胸に刻みながら、未来を担う子供たちのために、目の前の務めに丁寧に向き合っていこうと思う。

（N・N）

「教育委員会月報　令和８年５月号　No.919」

・**発行・著作** 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
・〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
・TEL：03-5253-4111（代表）
・URL：https://www.mext.go.jp

文部科学省